

研究の成果と今後の展望

言語能力とは、教科を越えた全ての学習の基盤となるものである。言語能力と一言で表されているものの、その構成要素には実に様々なものが挙げられる。言語が全ての教科等における学習基盤となっていることを考えると、学力向上に向けて、その役割が負うものは大きい。前回の指導要領の改訂から、この言語能力を教科横断的に指導していくことが示されてきた。全ての教科等において、それぞれの特質に応じた言語活動の充実を図ることの重要性も示されている。

本研究では、学力向上のため基盤となる読解力などの言語能力等を育成することを目的として、実践を行ってきた。その内容は大きく次の2点である。

- (1) 各教科における言語能力の育成方法の明確化
- (2) アカデミック・ライティングの指導の計画と実践

以下にその詳細について述べていく。

1 研究の実際と成果

(1) 各教科における言語能力の育成方法の明確化

- ① 各教科における言語能力の整理
- ② ①を細分化し、発達段階に応じた言語能力として整理
- ③ 言語能力の育成方法とその詳細の整理
- ④ 実践と考察

まずは各教科における言語能力の整理を行った。発達段階に応じた言語能力とその育成方法を明確にし、各教科がそれぞれの発達段階において、どのような方法で言語能力を育んできたかを共有できるようにするためである。各教科における言語能力を整理したことで、各教科において育成を得意としている言語能力、教科特有の言語能力、各教科に共通している言語能力など、言語能力を俯瞰して捉えるきっかけとなったことで、教科横断的な視点をもつことにつながった。

ここで整理したものを「言語能力を構成する資質・能力」にあてはめ、各教科において育成を得意としている言語能力、教科特有の言語能力、各教科に共通している言語能力など、言語能力を教科の枠組みを超えて捉えることができるようにし、指導モデルの作成や、指導を行う際の手立てとして取り入れた。どの教科でどのような指導をしているのかを知り、教員だけでなく、児童が活用している言語能力を自覚できるようにすることで「各教科等で身に付けた資質・能力を、目的に応じて用いることができる児童」や「身に付けた資質・能力を、汎用的(教科横断的)なものとして柔軟に用いることができる児童」の実現につなげていくことを目指した。

今年度まとめたものは、次年度以降も加筆修正を行っていく。まとめた言語能力については、全職員で共有し、次年度以降の指導に生かしていく。また、児童用としても整理していくことで、児童が各教科で学んだことを生かしているという実感がもてるようにしていきたい。

(2) アカデミック・ライティングの指導の計画と実践

- ① アカデミック・ライティングの定義付け
- ② アカデミック・ライティング指導モデルの作成

③ アカデミック・ライティングの計画と実践

④ 実践と考察

次に行ったのがアカデミック・ライティングの指導の計画と実践である。各教科で育成してきた言語能力を関連付け、各教科等の枠組みを超えた言語能力の育成を図るために「鯨っ子学習」を設定した。この鯨っ子学習は、各教科の学習を通して身に付けた言語能力を統合して発揮する場という位置づけである。アカデミック・ライティングの指導は国語科における言語活動とは異なるものであり、読解（input）した情報をどのような手順で表現（output）していくのかを指導し、各教科で育成してきた言語能力を、より現実の文脈に沿って働かせることによって、さらなる教科横断的なものにしていくことをねらった。

実践後に行った、「言語能力を統合して解決する問題①②」の検査においては、アカデミック・ライティングにおいて指導可能な言語能力として設定した項目においては一定の伸びが確認された。また、鯨っ子学習における保護者アンケートにおいても、児童の言語能力の向上に関する意見が多く見られている。

また、取組開始前の6月に、NINO認知能力検査、読書力診断検査を実施した。また、1月には標準学力検査CRTも実施し、量的なデータが得られる検査を複数実施してきた。次年度に再度実施し、その比較によって児童の言語能力の育成状況を測定することができると思う。

2 今後の展望

今後の展望としては、以下のことが挙げられる。

- ① アカデミック・ライティング指導における有効な手立ての整理
- ② 言語能力の育成状況を測定する検査の検討及び改善
- ③ アカデミック・ライティング指導の改善と実践

今年度は、1年次ということもあり、各担任がアカデミック・ライティング指導モデルに則った指導を行ってきた。そのため、手立てについては担任の裁量によるものが大きかった。今年度の取組後には、有効だと感じた手立てを児童の姿とともに整理してまとめている。今後、発達段階における手立てを整理し、アカデミック・ライティング指導の改善を図っていく必要がある。

また、各教科で育成してきた言語能力が発揮されている姿としても記録に残してきた。今後も具体的な姿として記録を残し、その記録を反映させてアカデミック・ライティング指導の改善にも取り組んでいく。